

電車の引退を知る新聞

～電車 第二の人生～

電車は引退後、大きく分けて3つの利用方法があります。

1. 博物館食官などに展示される
2. 材料として他のものに生まれ変わる
3. 中古車両として再利用される

電車の寿命

税制上の耐用年数は13年です。しかし、13年を過ぎたら廃車しなければいけないわけではなく、法定検査をパスできれば14年目以降も走れます。

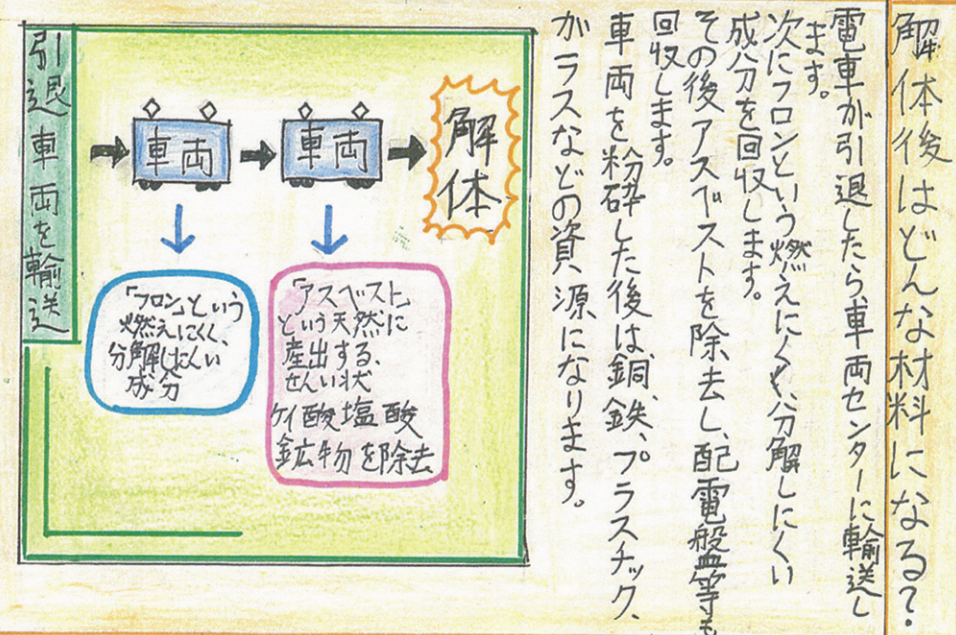
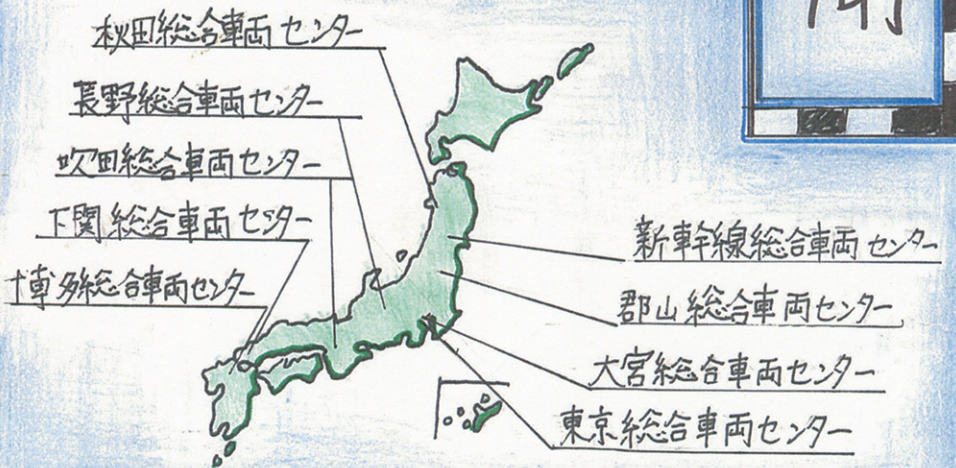
京阪2600系は60年以上も走っているよ!



国内の展示車両

国内に展示されている車両はたくさんあります。
E系、ドクターイエロー、0系、38系、115系、湘南色などがあります。
しかし引退しても展示できない車両もあります。安全に展示できないほど老朽化している。安全基準を満たしていないものは展示できず解体されます。

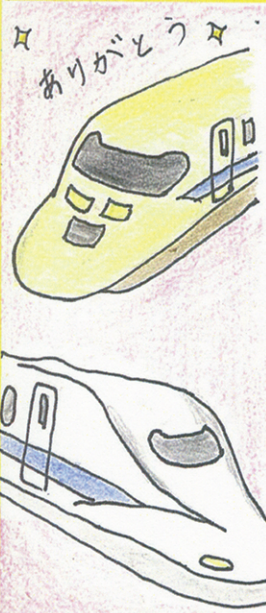
解体する場所



2025年ドクターイエロー

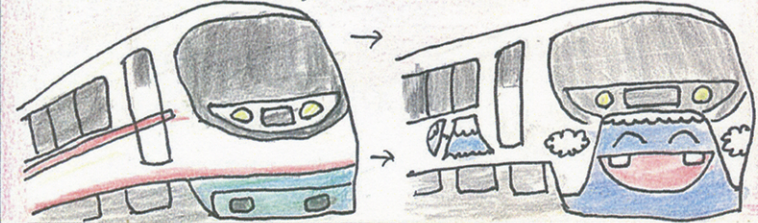
引退

JR東海が保有するドクターイエローは2025年JR西日本が保有するドクターイエローは2027年に引退することになりました。ドクターイエローは東京から博多、160kmを盲間かけて往復しています。老朽化により引退したドクターイエローに代わり、今はN700Sが検査をできるよううにしています。



中古車両の行方

引退した車両は、地方の私鉄に譲渡され、中古車両として第二の車両人生を始めるものがあります。中古の鉄道車両を導入する理由として大きなものは、車両価格です。鉄道車両を新車で導入する場合、価格は1両あたり1億円前後となります。一方中古車両を導入する場合、価格は新車の半分近くまで下がります。大規模投資が必要となる新型車両の投入は経営状況が厳しい地方の鉄道事業者では困難です。老朽化が進む車両の置き換えとしては新車より予算をへらすことのできる中古車両は、地方鉄道の救世主ともいえる存在です。

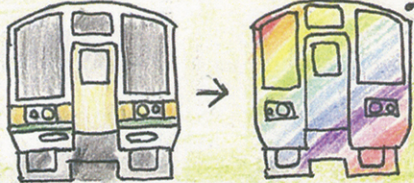


身近で譲渡された車両

西武電鉄 → 流鉄流山線



2025年、JR東海21系も譲渡されました!
どんなデザインになるか楽しみ!



編集後記

私は最近テレビで新しい電車ができたことは聞くけど、古くなった電車はどうなるんだろう。という引退したのこの新聞を作りました。
私は新聞を作る前は、ドクターイエローが引退したことが知りませんでした。ただ、引退しても新しく生まれ変わって色々な所で使われたり、他の電車で使われたりして、この世から消えなかった。と知りませんでした。と知らないこともあった。と思うのも、調べていくと、なるほど、と思えた。